

筑波大学附属図書館 年報 2021 年度



University of Tsukuba Library

Annual Report

2021



目次

UNIVERSITY OF TSUKUBA LIBRARY
ANNUAL REPORT 2021

21

C O N T E N T S



1	1 館長挨拶
2	2 トレンド 「論じる力」の育成に果たす図書館の役割
4	3 フォーカス (2021 年度の特徴的な活動・事業) 1) 電子ブック試し読みキャンペーンの実施 2) チャットレファレンスの開始 3) 文献複写自宅宛郵送におけるクレジットカード決済の導入 4) 令和 3 年度大学図書館職員長期研修のオンライン開催 5) LA セミナー「ためになる卒論・修論エピソード」をオンラインで開催 6) つくばリポジトリの新システム移行について 7) 全学計算機端末の利用再開 8) 中央図書館本館耐震ブレースの有効活用 9) 令和 3 年度筑波大学附属図書館特別展「時を数（よ）む一紀年・暦法・元号」を開催 10) 狩野山雪画「歴聖大儒像」の修復 11) 附属図書館ボランティアの活動
13	4 資料紹介 The new Hollstein Dutch and Flemish etchings, engravings, and woodcuts, 1450-1700
14	5 職員の活動 1) 令和 3 年度茨城県図書館協会初任者研修会への参加 2) 2021 年度大学図書館職員短期研修への参加 3) 「令和 3 年度西洋社会科学古典資料セミナー」受講報告 4) 2021 年度 国立大学法人等若手職員勉強会への参加 5) 国際図書館協力セミナーへの参加 6) SPARC Japan セミナー 2021 参加報告「研究データポリシーが目指すものとは」 7) 論文発表・事例紹介等 8) 職員研修会
18	6 トピックス 1) サービス・活動 2) 展示 3) オリエンテーション・講習会 4) 研修・シンポジウム 5) 会議 6) 研究開発室
21	7 メディアにみる附属図書館 1) 学内外のメディアに掲載された当館に関する記事 2) 筑波大学附属図書館の刊行物 3) 筑波大学出版会の刊行物 4) 出版・放映・web 上に掲載された所蔵・公開資料
22	8 組織図・歴代図書館長
23	9 統計

表紙写真

上：中央図書館とキンモクセイ
下：修復完了した「歴聖大儒像」

裏表紙写真

上：医学図書館1階
がまじゃんぽーとコズミくん
(筑波大学アスレチックデパートメントマスコット)
中：体芸図書館360°VR撮影画像
下：雪の日の大塚図書館
図情図書館の新しい入館ゲート

※本冊子に記載の所属・役職は全て2022年3月31日現在のものです。

館長挨拶

中央図書館 エントランス



副学長(企画評価・広報担当)・附属図書館長

池田 潤

皆様のお手元に、2021年度附属図書館年報をお届けいたします。
昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受ける中、大学はオンライン・対面の両方を活用し、活動を継続しています。附属図書館でも教育・研究活動のよりよい環境を整えるため、多様な取組みを進めてきました。

オンラインで利用できる資料をより多く提供するため、6月7日から10月6日まで電子ブックの試読キャンペーンを行いました。150万冊の電子ブックが試読可能となり、試読された回数や、試読後の購入希望が多かった資料のうち、121点を購入し継続してご利用いただけるようにしました。また、昨年度から、来館が困難な学内者向けに、図書館から自宅への文献複写物郵送サービスを実施しています。これまでは料金を現金書留でお送りいただいていたが、9月からクレジットカードもご利用いただけることとなり、より利便性が向上しました。

図書館へのオンラインでのお問い合わせには、ウェブフォームやメールをご利用いただいていたが、2021年3月から試行として、ウェブサイトからアクセスできるチャット機能も導入しました。リアルタイムのやり取りによって、従来の方法に比べて対面に近い、きめ細やかな対話が可能なものです。2022年1月からはチャットボットの機能を加え、利用者にとってさらに情報を得やすい問い合わせ方法を模索しています。

昨年度から、対面での図書館利用ガイダンスや講習会の開催に替えて、動画・資料をWebサイトに掲載しオンラインで提供しており、大学院生のラーニング・アドバイザーによるセミナーもオンラインで開催しました。今年度はリアルタイムでの双方向のセミナーとしたため、質疑応答の時間には多くの質問が寄せられました。これに加えて、大学図書館職員長期研修も今年度はオンラインで実施しました。大学図書館職員長期研修は、全国の大学・関係機関の図書館職員を対象に行われる2週間の研修です。毎年対面で開催していましたが、昨年度は残念ながら中止せざるを得ない状況であったため、今回が初めてのオンライン開催となりました。全国から35名の参加があり、研修の内容に加え、オンラインで開催したことに対して好意的な意見が多く寄せられました。これらの経験を、今後の図書館サービスにも活かしてまいります。

館内の利用制限についても、感染症予防対策を十分に行った上で少しずつ緩和しつつあります。5月6日から中央図書館貴重書展示室の開室を再開し、常設展をご覧いただけるようになりました。11月8日から12月3日には、同展示室では2年ぶりの催しとなる図書館特別展「時を数(よ)む一紀年・暦法・元号」を開催しました。筑波大学所属者に限っての催しとなりましたが、『万葉和歌集』や『延喜式』など暦や元号に関する貴重な資料を直に目にしていただくと同時に、ウェブサイトにも資料の画像や図録、特別講演の動画を掲載し、来館できない方にも特別展の雰囲気を感じていただくことができました。また、2019年度から行っていた歴聖大儒像の修復が2022年3月に完了し、2022年5月には特別公開を予定しています。全学計算機については、プリンタのみの利用とされていたところ、さらに11月1日からは台数の制限を行った上で端末の利用を再開し、2022年2月からは利用可能な台数を増やしました。

学外者の利用については、長らくご不便をおかけしているところですが、6月30日から利用希望資料などの事前照会を行っていた上で資料利用を再開しています。さらに、12月14日から、卒業生と元教職員については学外者貸出利用証の発行手続きを再開し、学外者貸出利用証をお持ちの方に限り、事前照会なしでご入館いただけるようになりました。6月にはつくば市立中央図書館と相互貸借について申合せを締結し、お互いの所蔵資料をこれまでよりも短時間でお届けできることとなりました。

今後も附属図書館が皆様の教育や研究の一助となりますよう、ますますサービスの充実を図ってまいります。皆様のご協力・ご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

(2022年3月31日)

「論じる力」の育成に果たす図書館の役割

1. 大学初年次教育で学ぶ「書くこと」

大学で学ぶために求められる重要な力の一つに「論じる力」―根拠に基づいて意見を述べる力―があることは誰しもが認めるところでしょう。その力は、大学で学ぶためのみならず、社会をよりよく生きるために欠かせないものとも言えます。

文部科学省の公表する「大学における教育内容等の改革状況について（令和元年度）」によれば、初年次教育を導入している大学は722大学（調査対象の97%）に上ります。その取り組みの内容として最も多いのは「レポート・論文の書き方等の文章作法」の指導で、678大学（91%）が実施しているという事実にも頷けます。

別の見方をすれば、大部分の大学で、新入生に対する文章作成の指導が必要だと考えられていることとなります。もちろん、新入生にライティング・スキルを指導することは必要かつ重要なことですが、問題は、多くの場合、そこで必要となる指導の内容に、本来なら高校までに身に付けておくべきことが、すなわち高校までの教育課程にはっきりと位置付けられている内容が、少なからず含まれているという現状です。

具体的な指導の内容はまちまちであるとしても、「レポート・論文の書き方等の文章作法」といったスキルの伝達で済むような大学は、実際にはほとんどないようです。本学の共通科目「国語」の授業も、もう少し基礎的な内容から始める場合が多くなっています。

ちなみに、共通科目「国語」は、全国の大学に先駆けて設けられた言語表現科目であり、開学当初から日本語学、日本文学、国語教育学等を専門とする6名の専任教員が担当しています。問題発見、問題探究、論述表現、相互理解の力の育成を目的に掲げる、いわゆる「表現教養型」の科目であり、各部署が独自に行う「学習技術型」や「専門基礎型」の取り組みと相補的に働くような仕組みになっています。

そしてもう一つ、本学の学生の「論じる力」の育成に大きな役割を果たしているのが、附属図書館が実施する「ライティング支援セミナー」だと言えます。附属図書館研究開発室のプロジェクトとして、平成24（2012）年度、4人の教員による8回のセミナーが、中央図書館2階の「コミュニケーションルーム」で開かれたのが最初でした。以来、内容を更新しつつ、協力する教員も増やしつつ継続されてきましたが、今回のコロナ禍で、ここ2年間は開催が見送られているのは残念なことです。

2. 大学図書館による支援

ここ10年ほどで、学びのプラットフォームとしての大学図書館の役割はますます大きくなっています。その中でもライティングの支援は、大学図書館において最もさかんになされる取り組みの一つと言えます。

平成22（2010）年の「大学図書館の整備について（審議のまとめ）―変革する大学にあって求められる大学図書館像―」（科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会）は、「大学図書館に求められる機能・役割」の一つに「学習支援及び教育活動への直接の関与」を挙げ、「ラーニング・コモンズ」の整備を提言して、次のように述べています。

ラーニング・コモンズは、複数の学生が集まって、電子情報資源も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」を提供するものである。

…（中略）…

このような「場」を利用して、学生がレポートや論文の書き方を実践的に学んだり、ライティングセンターの講義や演習を実施することも考えられる。また、各種検索ツールや大学図書館の使い方のガイダンス、教員による研究会の実施にも対応することで、学生や教職員の知的交流活動の活性化を図ることが可能であろう。

これを受けて「ラーニング・コモンズ」を整備する大学は急速に広がり、平成23（2011）年に257大学であったのが平成26（2014）年には425大学に増えました。大学院生による指導の例も見られるようになり、中央図書館内に大学院生の「ラーニング・アドバイザー」が誕生したのもこの頃でした。こうした環境が「ライティング支援セミナー」の母胎となったと言えるでしょう。なお、「大学における教育内容等の改革状況について」によると、現在では、国立84大学を含む617大学に「アクティブ・ラーニング・スペース」（「ラーニング・コモンズ」を含む）が整備されているようです。

また、文章作成を支援する専門的な機関としての「ライティング・センター」を設置する大学も徐々に増えてきました。「大学における教育内容等の改革状況について」によると、平成27（2015）年に国立17大学、公立4大学、私立51大学の計72大学だったのが、令和元（2019）年には国立25大学、公立2大

学、私立73大学になっています。このうち日本語を母語とする学生が日本語で書く学術的な文章の作成を支援するセンターがどれくらいあるのかはわかりませんが、学生一人ひとりに個別指導を行うところはこの制度の利点はあるそうです。たとえば「ラーニング・コモンズ」における学習支援などとの連携を図ることで、学術的な文章を書くことを学ぶ学生にとって効果的な仕組みとして発展していく可能性もあるように思います。

高校・大学における教育、またその両者つなぐ高大接続の場面を通じて、生徒・学生の「論じる力」の育成が図られるべきです。その取り組みの中で大学図書館が果たす役割には大きな期待が寄せられています。

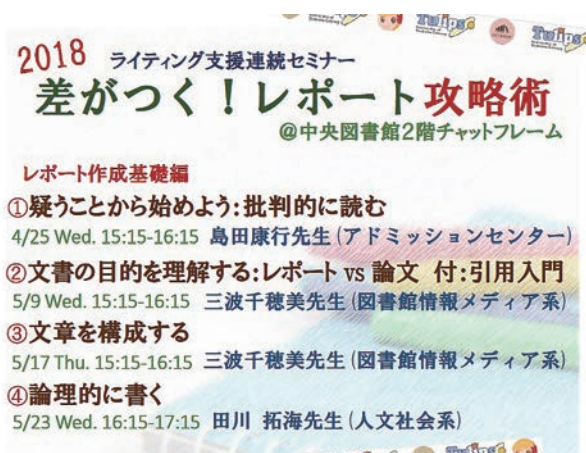
●文部科学省「大学における教育内容等の改革状況について（令和元年度）」2021年

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/1417336_00008.htm

●科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会「大学図書館の整備について（審議のまとめ）ー変革する大学にあって求められる大学図書館像ー」2010年

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm

（人文社会系教授・附属図書館副館長 島田 康行）



ライティング支援セミナーポスター(2018)



ライティング支援セミナー風景(2018)



中央図書館ラーニング・スクエア



中央図書館アカデミックスキルズ図書

1. 電子ブック試し読みキャンペーンの実施

1. 概要

「コロナ禍におけるオンライン教育・学習支援のための電子ブックの整備」として学内予算配分を受け、電子ブック試し読みキャンペーンを実施しました。

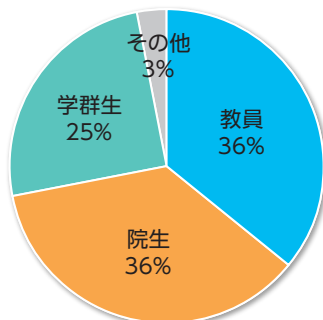
キャンペーンは、和書中心のMaruzen eBook Library(丸善雄松堂)、KinoDen(紀伊国屋書店)、洋書中心のProQuest Ebook Central(ProQuest)の3つのサイトで提供されている電子ブック(和書7万、洋書140万冊)を1タイトルにつき5分間自由に読むことができ、さらに図書館への購入リクエストも可能というものでした。試読期間は、当初2021年6月7日から9月6日までの3カ月間としていましたが、利用数が伸びていたことや、さらなる電子ブック利用促進のため、1カ月延長して10月6日までの4カ月間実施しました。

2. 実施状況

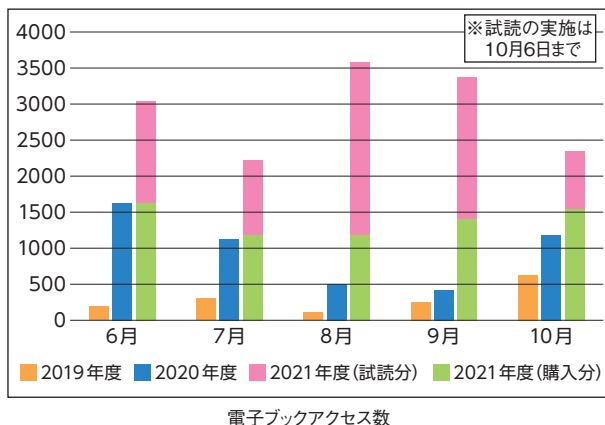
期間中の試読総数は、7,630回、試読されたタイトル数は、3,771件、リクエスト数は129件でした。

購入分も含めた電子ブックへのアクセス数について、過去2年間の同時期と比較したものが、以下のグラフです。コロナ禍となり利用が急激に増え

た2020年度と比較しても、2021年度は、購入済みブックに対する利用も今回のキャンペーンでの利用も多かったことがわかります。



リクエスト身別割合



電子ブックアクセス数

キャンペーンを通して、アクセス数やリクエストの多かった電子ブック121点を購入し、以後は制限なく読めるようにしました。これによりコロナ禍におけるオンライン教育・学習を支援するとともに、需要に基づいた電子ブックの整備を行うことができました。

3. 最後に

本キャンペーンは、キャンペーン後に一定額以上の電子ブックを購入することが前提となるサービス(注)であるため、度々実施することはできませんが、今後も予算要求等を行いつつ、必要な電子ブックの整備に努めてまいります。

コロナ禍で図書館への直接の来館が難しい場合でも、学外から利用できる電子ブックを学習、教育、研究の強い味方としてぜひご活用いただければと思います。

電子ブックの検索は、図書館トップページの「Tulips Search」、または、トップページの「電子ブック」から、「Tulips Discovery」をクリックしてご利用ください(学外からは、統一認証ID&PWの入力が必要です)。



(注)ProQuest Ebook Centralについては、リクエスト機能を有効にすることにより無料で試読が可能となるため、引き続きリクエスト及び試読を可能としています。

(情報企画課主幹 廣田 直美)

2. チャットレファレンスの開始

2021年3月にチャットレファレンスの試行を開始しました。2020年は、コロナ禍で図書館の利用にも大きな支障があり、来館できない学生や教職員の皆さんから、さまざまご意見ご感想をいただく中、自宅からでも質問することが可能な手段を増やし、少しでも学習・研究の助けになりたいという思いからオンラインで相談を受けられるツールの検討を始めました。

オンラインレファレンスに活用できるツールはテキストチャット以外にもありますが、利用する側から見た利点として、特に準備や予約が必要なく、図書館Webサイトからすぐに質問できること、また、すぐに応答が得られ、待ち時間が少ないことがあります。図書館に来て直接質問することが難しかったり、メールなどでは大げさと感じる内容であったりしても、気軽な気持ちで大いに質問していただきたいと考え、チャットを採用しました。

寄せられた質問に対しては、各館の職員が持ち回りで対応しており、可能な限り素早い反応を心掛けています。質問内容によっては、担当者と相談して適切な回答を行っています。

試行開始から2022年3月末までに80件以上の質問があり、2022年1月からは更にチャットボットの運用も開始しました。当館のチャットボットでは、表示される選択肢を選ぶことにより、Webページ上の必要な情報にアクセスすることができます。また、必要な情報がWeb上で見つからない場合には、すぐにチャットレファレンスに切り替えることもできます。試行中ですので、状況に応じ変更する可能性もありますが、ぜひお試しください。

チャットレファレンスは、附属図書館Webページ上部の「利用案内」からアクセスできます。ご質問をお待ちしています。



相談受付中です

チャットで質問 / Ask by Chat

Webサイト上のチャットボタン

(参考調査係長 菌部 明子)

3. 文献複写自宅宛郵送におけるクレジットカード決済の導入

2021年9月より、文献複写物の自宅宛郵送において、決済代行サービスを利用したクレジットカード決済を導入しました。導入の経緯と現状を紹介します。

1. 導入経緯

2021年6月、学内者を対象に、コロナ禍で、図書館への来館が難しい方へのサービスとして、自宅宛の文献複写の郵送を開始しました。この時、私費の料金の支払いは現金書留にて現金を郵送してもらう方法に限定していましたが、この方法は利用者にとって郵便局の取扱時間や郵送期間などの時間的制約や手数料の経済的負担があり、また図書館側でも、届いた料金の処理と発送管理の業務負担が少なくありませんでした。

他方で、社会的にキャッシュレス化に対する機運が高まっていたことから、学内でもキャッシュレス決済の導入に関する検討を進めており、文献複写の自宅郵送開始をきっかけに、本格的に検討を重ねクレジットカード決済の導入に至りました。

2. 現状

当館のクレジットカード払いは、インターネット上で手続きを行います。文献複写の申し込み後、図書館からの案内が届いたら、その都度、マイライブラリに記載されたURLにアクセスし、ご自身で支払い手続きを行います。

現金書留と比較し、自宅で手続きができる利便性や、現金の郵送期間が省略される分、入手までの日数が短縮されるなどの有利な点があげられます。導入以後は、現金書留とクレジットカード払いを選択できるようにしましたが、クレジットカード払いを選択する方がほとんどとなっています。

2021年度は対面授業と遠隔授業の割合が半々となり、来学の機会も多くなったためか、前年度より自宅宛郵送の件数は減少しています。しかし、来学頻度が少なかったり、受付時間内に来館することが困難であったり、また遠方にお住まいなど、それぞれのご事情によって、自宅宛郵送をご活用いただいている方も多いようです。

今後もこのサービスが皆様の学習・研究の一助となれば幸いです。

自宅までの複写物(論文コピー)郵送のご案内

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/service/mailling>

(参考調査係長 菌部 明子)

4. 令和3年度大学図書館職員長期研修のオンライン開催

1. これまでの開催状況

筑波大学では、毎年夏に大学図書館職員長期研修を開催しています。全国の大学図書館・関係機関の中堅職員を受講対象に、講義やグループワークを通して、「学術情報に関する最新の知識を教授するとともに、図書館経営・情報サービスの在り方について再教育を行い、職員の資質とマネジメント・企画等の能力の向上を図ることにより、大学図書館等の情報提供サービス体制を充実させること」を目的としています。

長期研修は講義の受講のみならず、各地の大学図書館に勤務する職員が一会場に集まり、他地域の様々な図書館職員と交流を持つ機会と捉えられ、1969年から2019年度までに51回の開催数を重ねていました。2020年度は一旦は開催を周知しながらも、新型コロナウイルス感染症が拡大する中で研修における安全確保を検討した結果、中止せざるを得ませんでした。

2. 2021年度の開催準備

2021年度は、依然として新型コロナウイルス感染症の収束が見込めない状況ながら、充実した研修内容の提供を目指し、最新情報を教授だけでなく参加者同士の連携を深めるという役割も考慮し、オンラインによるリアルタイムでの開催としました。準備にあたっては、これまで集合による対面で行っていた研修日程をオンラインでどのように実現するのかを館内にプロジェクトチームを置いて検討しました。オンラインシステムの選定やグループワークの進め方、講義と休憩などの時間配分や、期間中の連絡手段等、多方面での確認が必要となりました。

本研修では、一定期間に実際の行動を共にすることで得られるつながりも重視しており、オンライン開催がどのように受け入れられるかといった不安がありましたが、例年と変わらぬ受講の申し込みがありました。

受講生を確定した後は、受講の要となる接続環境の伝達や接続テストを実施して研修参加が可能であることを確認するとともに、システムの操作については適宜情報提供してオンライン接続に支障をきたすことのないよう進めました。

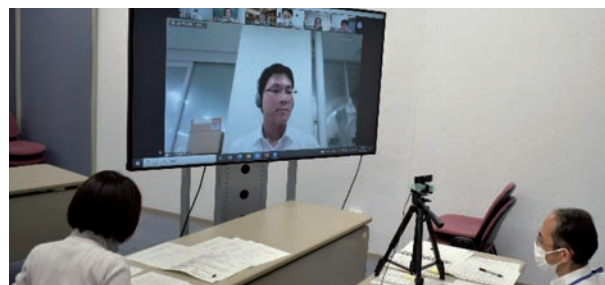
3. 2021年度の実施状況

2021年度は7月5日(月)～16日(金)に35名の参加を得て開催し、講義や演習はもちろん開講から閉講に至るまでをオンラインで行いました。対面時と変わらず、初日の講義から講師への質問が多く上がりました。講義時間終了後には自己紹介や研修への意気込

みを話す時間を設けて、互いに知り合うきっかけとしました。3日目からは演習も始まり、企画書の作成法やチームのまとめ方を学んだ後に、数名のグループに分かれ、設定されたテーマでの意見交換と企画書作成を体験しました。6日目からの班別討議では新たなグループに分かれて、演習で学んだことやグループ活動での経験を生かしながら、図書館での新しい取り組みを企画書にまとめています。

演習や班別討議においてはリアルタイムでの情報共有が必要となるため、様々なオンラインツールが活用され、口頭での意見交換だけでなく企画書ファイルを共有し、全員で書き込みながら話し合う様子が多く見られました。最終日には各班の代表者による企画発表があり、これを受けた他班からの質問や講評者のコメント等の質疑応答が行われました。それぞれ所属館での感染症対策を想定した企画、新たなオンラインサービスの実施や現状改善を目指す企画が提出され、発表者以外のメンバーからのフォローも受けての活発なやり取りとなりました。

研修の序盤では受講生同士が声をかけあう様子はそれほど多くはありませんでしたが、次第に講義の合間にも工夫しながらの意見交換が行われるようになりました。受講時に接続環境が不安定になる場面もありましたが、全員が無事に2週間の研修を修了しました。



班別討議発表の様子

4. 今後に向けて

受講生のアンケートには、「オンラインでも対面とほぼ同様に講義やグループワークを体験できた」「家や職場を離れることが難しかったため、オンラインで参加できてよかった」など、肯定的な意見があった一方、「対面での研修に比べて受講者同士の交流が難しかった」との声も多く上がりました。また、受講中の行動が制限されるなかで円滑な研修とするために、主催側でも時間配分やインフラ面の整備等更なる検討が必要であると感じました。

2022年度もオンラインでの開催となりますが、寄せられた意見や担当の反省点を元に、より充実した研修を目指したいと思います。

(企画渉外担当 並木 映李香)

5. LAセミナー「ためになる卒論・修論エピソード」をオンラインで開催

1. 概要

2021年10月13日、中央図書館の学生サポートデスクで活動するラーニング・アドバイザー(LA)が、LAセミナー「ためになる卒論・修論エピソード～執筆作業から息抜きまで～」をオンラインで開催しました。実際に卒業論文・修士論文の執筆に取り組んでいる学群4年生、修士2年生だけでなく、これから論文に取り組む学生にも役立つことを目指し、現役大学院生のLAが、自身の論文執筆経験に基づくプレゼンテーションを行いました。また、後半には質疑応答も行い、参加者の疑問に答えました。当日は55名が参加する盛況となりました。

2019年度までのLA セミナーは対面で開催してきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて2020年度には動画の提供、2021年度にはオンライン(同時双方向)での開催と、新たな方法に挑戦しています。



セミナー実施中のLAの様子

2. プログラム・参加者の声

第一部では2名のLAが講師を務め、文系・理系それぞれの論文執筆のエピソードやおすすめのツールについて話しました。具体的なスケジュールの立て方や執筆のコツ、あると便利なグッズなど、様々な視点から実際の論文執筆をサポートする内容でした。第二部では講師2名に司会のLAを加えた3名で、質疑応答を行いました。当日の参加者からの質問に加え、参加申込に併せて事前に寄せられた質問にも、各自の経験に基づいて回答しました。回答するLAの専門分野が異なるため、一つの質問に対して異なるアドバイスが出ることもあり、参加者が多様な考え方を知る機会にもなったと考えています。

セミナー終了後に実施したアンケートには、「論文執筆のイメージがつかめた」「実際の経験や具体的な方法が参考になった」等の感想が寄せられ、満足度の高さが伺えました。講義の資料や当日の様子はWebに掲載しています。

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/support/la#more>

(学習支援係長 大和田 康代)

6. つくばリポジトリの新システム移行について

1. 先行移行

つくばリポジトリは、2021年3月下旬に、それまで利用していたJAIRO Cloud(WEK02)から、新JAIRO Cloud(WEK03)へとシステム移行しました。本学リポジトリは、2014年からJAIRO Cloud(WEK02)の利用を開始し、論文等の登録・公開業務を行っていました。このシステムの提供元である国立情報学研究所(NII)が、より機能を充実させたWEK03を開発したことで、昨年、NIIとオープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)から、本学へ先行移行の打診がありました。その打診を受けて学術情報部内で検討した結果、先行移行へ協力することとなり、一足先に、リポジトリシステムの移行を行いました。

2. 登録作業

新JAIRO Cloud(WEK03)へ移行した直後は、前システムとの違いに戸惑うことが多く、登録画面一つとってもこれでよいのか、と担当内で確認しながらの作業で、かなり時間がかかっていました。また、CiNii Researchなどの関連データベースとの連携のために、IRDB(学術機関リポジトリデータベース)が、リポジトリに登録した論文等のデータを定期的に収集しています。その収集されたデータのチェックが、それまでのスキーマ(リポジトリのデータベースの構造の定義)とは別のスキーマに変更となったため、移行直後はかなりのエラーが出ていました。このエラーが出たデータについては、関連データベースとの連携で問題が出ないように、適宜修正を行っています。

3. 新システム

新JAIRO Cloud(WEK03)は、前システムのよい部分を引き継ぎつつも、論文だけでなく、研究データも登録可能な機能を合わせ持つリポジトリシステムです。近年ではオープンサイエンスが急激に広がりつつあり、2021年3月には内閣府が「第6期科学技術・イノベーション基本計画」を発表しましたが、この中の主要目標の一つとして「機関リポジトリを有する全ての大学・大学共同利用機関法人・国立研究開発法人において、2025年までに、データポリシーの策定率が100%になる」との目標が記載されています。今後は研究データの機関リポジトリへの登録・公開も必要になると思われる中、新JAIRO Cloud(WEK03)は、このようなオープンサイエンスの動きに合わせ、進化をしたシステムとも言えるでしょう。

現在、新JAIRO Cloud(WEK03)では、システム上の不具合が確認されていて、利用者の皆さまにはご迷惑をおかけしています。今後速やかに不具合が解消され、全国のJAIRO Cloud利用機関が、新システムの利点を存分に活用できるようになることを期待しています。

(リポジトリ係長 藤田 祥子)

7. 全学計算機端末の利用再開

1. 附属図書館の全学計算機

附属図書館には5館あわせて212台の全学計算機端末が設置されています。中央図書館にはその半数近くの101台の端末があり、大学内のサテライトの中では圧倒的に高い利用率となっていました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、学術情報メディアセンターの方針に基づいて2020年4月20日から図書館を含む全サテライトが利用停止となりました。

2. プリンタの利用再開

全面停止から約2か月後の2020年6月22日、プリンタのみ利用を再開しました。再開にあたっては、消毒液等の設置、毎日プリンタ周りの除菌清掃をする等の感染症対策をとりました。当初アルコールで消毒をしていましたが機器に良くないことが判明したので、厚生労働省のWebサイト等で調べ、中性洗剤を用いる方法に変更しました。カウンターには個人のPCやUSB等からの印刷方法に関する質問が数多く寄せられ、全学計算機端末を使用しない印刷方法の案内を行いました。

3. 端末の利用再開

端末の利用再開に向けて、感染症対策として端末の側にパーテーションを設置しました。一部分は研究基盤総合センターに依頼し、既存の机にぴったり合うサイズの仕切りを作成できました。学術情報メディアセンターと連携し、このような対策を取ったことで、利用停止から約1年半後の2021年11月1日、端末の利用も再開することができました。利用者同士の間隔をあけるために利用可能な端末を制限しており、使える端末数は通常よりも少なくなっていますが、プリンタに加え、キーボード、マウス等の除菌も毎日行い、安心して利用できるように努めています。



パーテーションの設置

(デジタルライブラリ係長 後宮 優子)

8. 中央図書館本館耐震ブレースの有効活用

附属図書館では、利用者の皆様に快適な学習・研究空間を提供するための整備を続けています。2021年度は中央図書館本館3階から5階の環境を見直し、デッドスペースとなっている耐震ブレースの有効活用を検討しました。

芸術系の教員から助言をいただき、ブレースに被せて設置が可能な、無垢材を使用したオリジナルの什器を作成しました。無垢材のナチュラルな質感で親近感のあるテーブルとベンチは、広い館内で心地よさそうな居場所の在処を示すサインとしての存在感があり、図書館の利用を促進する効果が期待できます。

また、使われていないときには、館内の空間を和らげる景観材となっています。

1. テーブル

通常はブレースに被せて設置していますが、キャスターがついているため、書架の間に移動させて書見台とするなど、好きな場所に移動して自由に使うことができます。



可動式のテーブル

2. ベンチ

テーブルと同様にナラ無垢材のオイル仕上げのため、使用時の感触が良く、癒やし感があります。



ベンチ

2022年4月現在、テーブルは4台、ベンチは10台設置されています。お気に入りの場所を見つけて、ぜひご利用ください!

(アカデミックサポート課主幹(学習支援推進WG) 守谷 美佐子)

9. 令和3年度筑波大学附属図書館特別展「時を数(よ)む 一紀年・暦法・元号」を開催

1. 特別展概要

附属図書館の特別展示は1995年度以降27回開催され、学内外の多くの方々に観覧いただけてきました。新型コロナウイルス感染症対応のため学外者の来場制限はありましたが、2021年度は11月8日から12月3日まで、中央図書館貴重書展示室において特別展「時を数(よ)む 一紀年・暦法・元号」を開催し、現物を展示公開することができました。

今年度の特別展は、附属図書館と人文社会系とで共催し、山澤学准教授、谷口孝介教授の企画・立案のもと、附属図書館研究開発室プロジェクトの一つとして位置づけ、附属図書館職員8名のワーキンググループが実施にあたる体制で行いました。

本特別展は元号の「令和」改元を機に2020年度に企画されたものですが、2年越しの実現となりました。

古代に始まる時を刻む営為の成立から、現代日本における元号「令和」に至る紀年・暦法をめぐる文化を、附属図書館所蔵の貴重な資料から考えるものでした。

特別展開催期間中には、学内から903名が訪れ貴重な資料を観覧しました。

2. 特別展構成

展示は3部構成でした。第1部「日本の元号と暦」では日本の元号と暦の成立に関する資料を展示しました。日本を含む東アジアで普及した太陰太陽暦の流通の過程や、中国における改暦と日本における元号の改元の考え方の違いについて知ることができます。日本における改元が天皇の即位、祥瑞の機会のみではなく、災異改元、辛酉改元、甲子改元として行われてきたことが資料を元に解説されました。唐代中国から伝わり、約800年改暦されずに日本で使われてきた『宣明暦』や、江戸時代幕臣の渋川春海の作成した日本独自の暦法書『貞享暦』も展示しました。

第2部「明治から令和へ」では天皇一代につき一元号とされた明治から、令和へ至る元号の典拠等の資料を展示しました。来場者からは、森鷗外や夏目漱石といった文豪と元号の意外な組合せへの感想も寄せられました。

第3部「神武天皇即位紀元の周辺」では元号以外の紀年法である神武天皇即位紀元に関する資料を展示しました。神武天皇即位を記す現存最古の史書である『古事記』や神武天皇陵の比定を巡る資料、『紀元二千六百年記念日本万国博覧会』のポスターなどの絵図での解説は、より理解を深める助けとなりました。

3. 図録

特別展をより理解していただくために、展示資料の解説を中心とした図録を作成しています。今年度の図録は、第1部～第3部を山澤学准教授と谷口孝介教授、コラムを江藤光紀准教授、鈴木伸隆准教授、馬場美佳准教授、白戸健一郎助教が執筆し、編集および校正は特別展ワーキンググループが行いました。多様なテーマで開催される特別展の図録は、会期終了後にも多くの方々に資料として活用されています。

図録ではコラムや特別展会場にパネルとして掲げた改元一覧も参照できます。



特別展ポスター

4. 講演動画

本年度は人の密集を避けるため、従来対面で開催してきた講演会、ギャラリートークに代えて山澤学准教授による特別講演動画を公開しました。図録同様に主題ごとの3部構成となっており、単に展示物や図録を見る以上に理解を深められるようになっています。会期終了後の現在も特別展 Web ページから視聴することが可能です。

5. 特別展Webページ

展示内容に合わせた Web ページを作成し、電子版図録や展示資料の紹介を行うほか、SNSを活用し様々な情報を発信しています。2021年度筑波大学附属図書館特別展については、以下のサイトをご覧ください。

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/2021/>

(情報企画課主幹(特別展 WG 主査) 真中 孝行)

10. 狩野山雪画「歴聖大儒像」の修復

筑波大学附属図書館は師範学校以来の前身校旧蔵資料を含む約270万を超える資料を所蔵し、その中には江戸時代の狩野派の絵師たちによる作品が3点含まれています。大学図書館は貴重な資料の保存と公開の責務を担っていますが、資料の状態によっては公開が困難なものも少なくありません。

ここでは、2019～2021年度に実施した狩野山雪画「歴聖大儒像」6幅の保存修復について紹介します。

1. 「歴聖大儒像」について

歴聖大儒像は全21幅からなり、湯島聖堂(昌平坂学問所)に伝存されてきたものです。現在は、宋時代の儒者を描いた6幅(周子、程叔子、邵子、程伯子、張子、朱子)が筑波大学附属図書館に、孔子およびその4人の弟子達や、顔子などの儒者を描いた15幅は東京国立博物館に保管されています。本学所蔵の6幅は、実際の釈奠(孔子を祭る儀式)に使用されていた貴重な資料です。6幅とも「山雪」の印が捺され、それぞれの画面右上には像主の名と賛が記されています。

狩野山雪は天正18(1590)年に生まれ、父の死去後に狩野山楽に入門し婿養子となり、京狩野派を継承した江戸時代初期の絵師です。歴聖大儒像は、寛永9(1632)年、山雪が43歳の時に、林羅山の依頼を受けて描いたものです。

2. 修復について

本作品は料紙に淡彩で儒者が描かれた掛軸6幅で、いずれも折損の発生が著しく、本紙、表装裂地ともに虫喰による欠失がありました。また、一部の料紙は表面が毛羽立ち、絵具層は剥落が生じ、経年による汚れやシミ、裏打紙の糊離れも確認されていました。

貴重な資料の保存と公開のためには早急な修復が必要でしたが、修復費用を大学の経費で捻出する目途が立たず、2018年6月から複数の財団に修復事業の助成を申請しました。幸いにも、2018年10月の朝日新聞文化財団文化財保護助成(3か年)をはじめ、2020年1月に出光文化福祉財団美術品修復助成(2か年)、2020年3月に住友財団文化財維持・修復事業助成(2か年)に採択されました。こうして、2019年4月から「歴聖大儒像」保存修理事業は開始されました。

修復期間は3年間で、東京の修復工房で国指定文化財の修理に準じた手法による本格解体修理を実施することになり、おおよそ以下のような工程で進みました。

修復前に、破損状況、構造、使用材料、作品形態等の調査をし

調査カルテを作成、適宜デジタルカメラを用いて記録します。調査は修理方針を決めるうえで、大切なものです。今回は、赤外線写真調査の段階で、汚れ、痛みがかなり進んでいたこと、過去の修理によって本紙が部分的に薄くなっていることなどがわかりました。また、掛軸の表装は総金襴裂地の仏表装仕立てに象牙軸を使用した格式の高いものであることもわかりました。



剥落止めの様子

汚れの除去は、柔らかい刷毛等を用いて表面に付着している微塵等を除去する乾式除去と、イオン交換水を噴霧し水溶性の汚れを吸水紙に吸い取らせる湿式除去を行いました。本作品は、乾式除去の後に、絵具層の剥落および剥落の懸念される箇所に、膠水溶液を塗布し剥落止めの処理を行っています。軸、表装部材を取りはずし水溶性の汚れが除去された本紙は、全体が明るくなりました。



旧肌裏紙除去の様子

本紙から全体の汚れが除去されたら、旧裏打紙、旧肌裏紙、旧補修紙等の除去を行います。経年による劣化の激しい裏打紙の除去は、布海苔を用いレーヨン紙を表打ちして表面の保護を行った上で、本紙を傷めないようにピンセットで繊維をめくりながら慎重に行われ、作業には多くの時間を必要としました。



補修の様子

すべての裏打ち紙が除去されると、欠失箇所の補修が始まります。本紙の繊維組成検査に基づき、竹と楮の混合紙を作製し料紙と類似した補修紙として欠失箇所すべてに補填しました。欠失箇所補修後は、本紙への裏打ちが行われますが、新裏打ち紙は本紙および欠失箇所補修の色味を考慮し選定されています。さらに折損が生じている箇所及び懸念される箇所に対して、裏面側より折伏せを施し折損を修繕します。2～3mm幅の带状に裁断した楮紙を、竹べら等を使って折れ部分に貼っていきますが、その作業は思わず息を止めて見入ってしまうほど繊細なものです。



折伏せの様子

本紙の裏打ち、折伏せ、裂の補修等が終わると、本紙と表装裂地を掛幅装の形式に接合します。修復のために解体されていた本紙、軸、表装部材が元の形に戻る瞬間です。その後、接合部分の段差が生じるのを防ぐため中裏打ちを行い、次に作品の裏面全体を整えるために総裏打ちを施します。補修材を補填した箇所には補彩を行います。オリジナル性を損ねるような加筆は行わずに、地色に合わせた補彩に留め、全体の調和を保っています。裏打ち、補彩後は仮張り板に貼り込み、表裏とも十分に乾燥させ仕上げの工程を待ちます。

今回の修復では、本紙を取り囲む金欄の裂地や風帯もきれいに補修し、汚損破損状態のため再利用できずに新調した打ち込

み鑑、巻紐等とともに掛幅装に仕上げました。修復が完了すると、公開用電子画像データを作成するため高精細デジタルカメラによる撮影を行い、修復工房での作業はすべて終了しました。修復後の作品は、折損等を防ぐため太巻添軸を作成し、正絹の裂に包み印籠蓋箱に収納しています。

3年間の修復を終えた本作品は、損傷箇所が丹念に修復され、儒者のやわらかな表情や衣の淡い色合いなど、描かれた当時の姿を想像させるものとなっています。期間中は、定期的に修復工程の確認のために工房を訪問し、その記録は附属図書館Facebookでも紹介しています。



風帯補修の様子

3. 修復完成記念特別公開

2022年5月16～27日まで、修復完成記念として「歴聖大儒像 儒者のまなざし」展を開催します。本展示では、修復された「歴聖大儒像」6幅を特別公開するとともに、修復の様子も多数のパネルを使って紹介し、制作に関する関係資料も併せて展示します。現代の古美術修復技術と、美しくよみがえった儒者のまなざしをお楽しみください。

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/2022rekisei/>

4. まとめ

筑波大学附属図書館では江戸初期狩野派の作品を3点所蔵しています。狩野探幽の屏風、狩野尚信の屏風、そして狩野山雪の儒者肖像画、これらは助成金等の獲得により2016～2021年度にかけて修復が完了しました。今後は、貴重な学術資料として未来に受け継がれることを願っています。

参考資料：筑波大学附属図書館所蔵日本美術の名品(2000.5)

孔子祭復活百周年記念事業草創期の湯島聖堂(2007.10)

(修復事業WG 大久保 明美)

11. 附属図書館ボランティアの活動

新型コロナウイルス感染症への対策のため、附属図書館のボランティア活動は、2020年3月5日から休止しています。

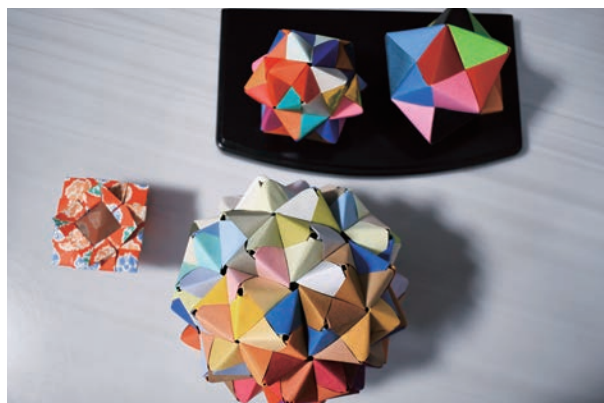
1. 2021年度ボランティア構成

- 男性：7名 女性：26名 計33名
- 年代別内訳
60代：22名 70代：9名 80代：2名
- 更新：33名
活動休止中のため、新規募集なし

2. 附属図書館ボランティア懇談会

附属図書館ボランティア懇談会は、附属図書館ボランティアと附属図書館長・副館長・附属図書館ボランティア専門委員会委員・図書館職員が年に一度、意見交換を行う貴重な場です。今年度は昨年に引き続き対面形式ではなく、懇談会資料の配布という形をとりました。

懇談会資料により、長期間、来館できないボランティアへコロナ禍における附属図書館の様子を知っていただくことができました。また、ボランティアからは、長期の活動休止にもかかわらず、さらに新しいことにチャレンジしている様子や、活動再開の日を心待ちにしている等の近況報告が寄せられました。



ボランティアによる作品

(多様化支援係長 飯田 貴子)

The new Hollstein Dutch and Flemish etchings, engravings, and woodcuts, 1450-1700

1. 西洋版画の定番レゾネ 「ニュー・ホルシュタイン」

通称「ニュー・ホルシュタイン」は、オランダ、フランドル、ドイツで1450年から1700年に制作された銅版画と木版画を網羅するカタログ・レゾネです。オランダとフランドルのシリーズは1993年から既刊116冊、ドイツのシリーズは96年から既刊66冊を数え、いずれも継続刊行中です。本学では、令和3年度の「人文社会系コレクション」のための予算を充てて、2005年までに刊行されたオランダとフランドルのシリーズ54冊のうち41冊が購入されました。この41冊は、オランダの美術館と研究機関の除籍本を古書肆が独自にセット化したものですが、状態が良好で価格もリーズナブルな「出物」でした。数こそ全体の三分の一ほどですが、国内で既刊全冊を揃える機関はなく、まとまった数が一気に配架されたことで、本学における西洋版画史や版画制作理論の研究と教育の利便性は格段に向上しました。

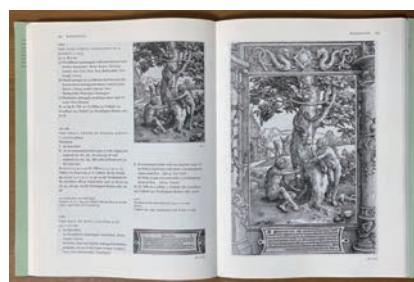
カタログ・レゾネは、フランス語で「論理的根拠をもった目録」を意味し、日本ではしばしば、単にレゾネと呼ばれます。17世紀末に競売品の真贋判断のために作られたはじめたレゾネは、18世紀半ばに分類方法や形式が整備されました。美術作品のレゾネは、特定の作家や時代地域、コレクションなどで括った「作品総目録」が通例です。そこには、作品ごとの図版、題名、制作年、技法、寸法、所蔵者、来歴、展覧会歴、文献等の諸情報に加えて、編纂した研究者による論考も収められ、さらに版画の場合には原版の修正変更の段階を示す「ステート」や刷りの数を指す「エディション」など固有の事項も含まれています。

2. レゾネのアップデート

「ニュー・ホルシュタイン」には、その名のとおり旧いシリーズがあります。その「ホルシュタイン」は、ベルリンの大手版画商フリードリヒ・ホルシュタイン(1888-1957)が、長年蓄積してきた版画に関する膨大な記録を元手に編纂刊行を企図したレゾネでした。1949年に始まったオランダとフランドルのシリーズは、版画家の名をアルファベット順に並べた全25冊の計画でしたが、ホルシュタインの生前に刊行されたのは14冊。遺志を継いだ研究者たちによる刊行は複数世代にわたって続き、索引巻の72冊目をもって2010年によりやく完結しました。

「ホルシュタイン」が未完のまま、研究者たちは1990年代前半に事業創始者へのリスペクトを込めて同じ名を冠した新たなレゾネ・

シリーズをスタートさせました。旧シリーズの分冊体系を見直し、陳腐化した情報をアップデートするために始まった新シリーズでは、作品図版数が飛躍的に増え、印刷精度も向上し、エックス線などを使用した非破壊調査の技術改良にともなう情報の量と質が高まりました。



J. P. Filedt Kok et al., *Lucas van Leyden. The new Hollstein Dutch and Flemish etchings, engravings, and woodcuts. 1450-1700*, Rotterdam: Sound and Vision, 1996.

3. 版画の間接性、模倣性、複数性

15世紀初頭に端を発する西洋版画は、視覚的イメージの複製伝達メディアとして同世紀のうちに絶大な信頼を得ていました。当時画家として名を馳せていたドイツのアルブレヒト・デューラー(1471-1528)は、版画制作にも偉才を発揮し、新たな美術表現の可能性を拓きました。木や金属の板面に刻まれたイメージが紙や布に転写される版画は、同一の視覚的イメージにもとづく間接性と模倣性、複数性を基本としつつ、その間接性ゆえに作者の想定すら超える偶発的な創造性を生み出します。画家デューラーは、版画のそうした特徴に関心を抱いたのでしょう。

今回購入された中には、デューラーの次代を担ったオランダの画家・版画家リューカス・ファン・レイデン(1494-1533)の巻が含まれています。旧レゾネ(1954刊)を補う新レゾネ(1996刊)における新知見の一例を紹介しましょう。

17世紀の著述家は、イメージの流行廃りに左右されないリューカスの制作姿勢を伝えていましたが、従来その著述の真偽は確かめられずにいました。1994年に欧米各国のコレクションに分散しているリューカスの版画作品について、エックス線撮影による紙の「漉かし」の調査がおこなわれました。その結果、紙漉きの時代の違いを示す相互に異なる透かし模様の存在が確認され、リューカスが原版の制作から20年を隔てて刷り直しをおこなっていた事実が明らかになりました。イメージが転写された紙に真実が隠れていたとは、まさに版画の特徴を象徴するような知見といえるでしょう。

(芸術系准教授 寺門 臨太郎)

5 職員の活動

1. 令和3年度茨城県図書館協会 初任者研修会への参加

1. 概要

2021年6月1日と7月2日にオンラインで行われた茨城県図書館協会初任者研修会に参加しました。第1回目は図書館サービスの基本、図書館員としての心構え、著作権の考え方について学びました。始めに、戦後からの図書館サービスの歴史及び「図書館の自由に関する宣言」「図書館学の五原則」などの知っておくべき理念の確認を行い、続いて図書館サービスについて、1.サービスの種類と課題2.利用者や他機関とのコミュニケーション3.他館の事例といった点から講義がありました。著作権については用語・概念と、図書館関係の規定を中心とした近年の著作権制度の動向を学びました。

第2回目はレファレンスサービスの講義で、レファレンスプロセスを中心とした内容に加えて、論理式や件名、キーワード選びのコツなどの検索方法、基本的なデータベースの紹介がありました。レファレンス質問の類型(所蔵調査、事項調査など)を確認し、レファレンスインタビューの事例分析を通してインタビューを展開する方法を把握しました。さらに探索方針の決定や調査・探索、回答を行う際のポイントと注意点の説明があり、質問の受付から回答までの考え方を学びました。

2. 研修に参加して

印象に残ったのは、第1回の講師の方が「図書館サービスについて考えるときは、まず自館のサービスや利用者層についてよく知ったうえで、何が必要か、何に取り組んでいくべきかといった視点をもつことが大切」とおっしゃっていたことです。また、著作権制度の動きを学んだことで、今後気を付けなければならないトピックを知ることができました。これからは自分から動向を追い、積極的に知識を吸収していきたいです。

レファレンスサービスの講義では、実際にカウンターで質問を受けたときにどのように対応するか、具体的にイメージをすることができました。利用者が本当に求める問いに回答することができたか、自分の対応を振り返って分析することも大切なのではないかと感じました。

今回の研修を通して、利用者に明確で適切なサービスを提供できるように研鑽を積むとともに、一つ一つの業務に真摯に取り組む自館への理解を深め、自館のあり方について考えて行動していくことのできる図書館員になりたいと思いました。

(医学図書館 岩村 良子)

2. 2021年度大学図書館職員 短期研修への参加

1. 概要

2021年10月26日(火)～10月29日(金)に開催された、2021年度大学図書館職員短期研修に参加しました。本研修は、「大学図書館等の活動を活性化するため、今後の図書館の企画・活動を担う要員となる上で必要な、図書館業務の基礎知識・最新知識を修得する」ことを目的として開催されました。2020年度は開催中止のため、2年ぶりかつ初のオンライン開催となりました。

2. 研修内容

日程	講義名
10月26日	大学図書館の現状と課題
	大学図書館職員のスキルアップ法
	情報リテラシー教育支援の現状
	大学図書館におけるリスクマネジメント
	国立情報学研究所の学術コンテンツ事業紹介
10月27日	効果的なグループ討議法
	グループ討議
	大学図書館における目録実務
10月28日	電子コンテンツ導入・提供の現状と課題
	学術コミュニケーションの動向
	海外研修経験から見た大学図書館
	グループ討議
10月29日	国立国会図書館デジタルコレクションとデジタル化資料送信サービスについて
	グループ討議・成果報告
	講評

※抜粋:国立情報学研究所 教育研修事業. 2021年度 大学図書館職員短期研修 カリキュラム及び講義資料.
<https://contents.nii.ac.jp/hrd/librarian/2021/librarian>
(参照2022-04-18).

3. 参加を通して

凝縮された内容の4日間で、大学図書館の将来に向けて職員としてどう取り組んでいくことができるか、思考を深める貴重な機会となりました。また、グループ討議では、電子ブックの選書・利用促進計画や大学図書館の防災計画等について、各班で討議を重ねて発表を行い、長期的で多角的な視点を養うことの重要性を学ぶことができました。

初のオンライン開催でしたが、様々なツールの活用や手厚いサポートにより、活発なコミュニケーションが生まれたことは、遠隔での研修の新たな気づきとなりました。

(デジタルライブラリ担当 西 彩花)

3. 「令和3年度西洋社会科学古典資料セミナー」受講報告

1. 西洋古典資料の整理・運用・活用のために

2021年10月27日に、一橋大学社会科学古典資料センター主催の「西洋社会科学古典資料セミナー」を受講しました。このセミナーは全国の図書館職員や研究者を対象に、西洋古典資料に関する専門的な講義を行うものです。例年は一橋大学(東京)での実習を伴う3日間の対面講義形式ですが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、半日のオンライン講義形式で実施されました。筑波大学附属図書館では、1850年以前に製作された洋書を貴重図書に指定しており、中央図書館貴重書庫には約5,500冊を所蔵しています。日本の和装古書とは整理法や保存管理方法が異なる貴重図書(洋書)を正しく取り扱うための知識を以前から習得したいと思っていたため、本セミナーを受講できたことは大変幸運でした。



中央図書館が所蔵する貴重図書(洋書)

2. 書誌学・古典研究・資料保存整理の講義を受けて

書誌学講義では西欧中世での書物の役割や“Sammelband(洋書特有の合綴・合冊形態)”等について、古典研究講義では近代日本の経済発展に寄与した国内蔵書コレクションについて学び、西洋古典資料の学術研究における重要性を改めて強く感じました。資料保存整理講義では、図書館におけるIPM(総合的有害生物管理)について注意すべきポイントを、多くの被害事例と共に知ることができました。虫害やカビ汚染から資料を守るためには、書庫に資料を受入する際の水際対策と、日々の温湿度管理やホコリ除去が重要です。書庫内の適正な湿度数値の範囲、空調設定や空気循環のコツ、効果的な清掃方法や殺虫殺力対策等、すぐに使える知識を数多く得ることができました。当館の貴重な洋書を守っていくために、これらの知見を早速活用していきたいと思います。

(古典資料係長 波邊 朋子)

4. 2021年度 国立大学法人等若手職員勉強会への参加

- 日程:2021年12月7日(火)~8日(水)
- 主催:国立大学協会
- 会場:学術総合センター(東京都千代田区)
- 対象者:若手事務職員(概ね大学職員の経験年数が5年から10年程度かつ主任以下、年齢は問わない)
- 今回のテーマ:

つなぐ・つながる国立大学。10年後の姿を思い描こう。

2年ぶりの会場開催となり、128名が参加しました。本学からは私ともう1人、企画評価室の職員が参加しました。

2日間の勉強会のうち11時間以上をグループワーク(交流、討論、発表)に費やすという大胆なプログラムでした。

基調講演の講師の瀬田元吾氏は筑波大学の卒業生であり、ドイツへ渡りドゥッセルドルフのサッカークラブ選手となって、引退後も同クラブのフロントスタッフとして10年以上務められた経験をお持ちです。日本人の多く住むホームタウンでの地域交流活動の実例や、「日本サッカー界に貢献する」という自己の目標と向き合ううえでの考え方などを共有していただきました。

また、グループワークのメインとなった企画立案・発表においては、事前アンケートで選択した、国立大学の将来像に関する関心分野(教育/研究/産学連携/地域連携/国際展開/規模/経営形態/マネジメント)を参考に10個の班が生まれ、私は「研究」に関心をもつ班に参加しました。最終的には「〇〇研究といえば□□大学!と言いたい!」というテーマで、全国の国立大学法人等の研究内容についてより多くの人々に知ってもらうための、常設&巡回&オンラインの“研究博物館”設立を提案し、参加者の相互評価においても一定の支持を得ました。班員のうち図書系職員は私だけで、他大学や共同利用機関法人の、図書館以外の部署の話をたくさん伺うことができて勉強になるとともに、ほぼ同世代の方々が私の知らない業務分野についていきいきと語るのを聞き、大変刺激を受けました。



(デジタルライブラリ担当 田村 香代子)

5 職員の活動

5. 国際図書館協力セミナーへの参加

1. 概要

2021年12月8日(水)に開催された私立大学図書館協会主催の国際図書館協力セミナーに参加しました。このセミナーは、時代に即した特定の主題に基づく専門知識を得る機会を持つことを目的としたものです。今回は「ヨーロッパの大学図書館の研究支援・学習支援の最先端に触れる」をテーマとし、コトレヒト大学図書館、ヘルシンキ大学図書館、ベルリン国立図書館から講師を招き、同時通訳付きのオンラインセミナーとして開催されました。

2. 講演内容

コトレヒト大学図書館の講演では、主に学部学生の学習を支援するためのサービスや、オランダでのオープンサイエンスの動向についてのお話がありました。またヘルシンキ大学図書館のセッションでは、図書館の概要、学生や教員のための支援、オープンアクセスサービス、フィンランドにおけるオープンサイエンスの概況などについて学ぶことができました。ベルリン国立図書館の講演では、国立図書館の歴史的な変遷、貴重コレクションの紹介、ドイツのアジア学に関するポータルサイト「CrossAsia」の概要や日本研究の支援などについて説明がありました。

3. 参加を通して

セミナーの中で特に印象深かったことは、コトレヒト大学図書館で学部学生や大学院生に対してオープンサイエンスに関する教育を始めようとしているという点です。オランダではオープンサイエンスの推進に重点を置いているため、学部学生の段階からオープンサイエンスの教育をしていく必要があるという流れになっていることを知り、大変勉強になりました。またヨーロッパの大学図書館は、日本の大学図書館と同様に新型コロナウイルス感染症の影響を受けていて、来館者数の減少、スペースの利用制限などがあり、それに伴いオンラインでの図書館サービスの提供に力を入れていることも見受けられました。

日々の業務をする中で、海外の大学図書館について目を向ける機会が少なく感じていたため、ヨーロッパの大学図書館の最新の状況を知ることができ、大変有意義な経験となりました。

(学習支援担当 齊藤 真以)

6. SPARC Japan セミナー2021参加報告 「研究データポリシーが目指すものとは」

2021年3月に内閣府が発表した「第6期科学技術・イノベーション基本計画」の中の主要目標の一つとして“機関リポジトリを有する全ての大学・大学共同利用機関法人・国立研究開発法人において、2025 年までに、データポリシーの策定率が100%になる”との目標が記載されています。策定率100%ということで、各大学や機関では、このデータポリシー策定に関して、検討中というところも多いのではないのでしょうか。

2022年2月22日に開催された本セミナーは、このタイムリーなテーマのセミナーということと、オンラインということもあってか、SPARC Japan Webページのイベント情報では、参加者が297名となり、昨年度の他のテーマよりも多い参加者数となっていました。

13時から16時55分までと長時間の開催でしたが、前半には文部科学省の三宅隆悟参事官と、電気通信大学の田野俊一学長、国立情報学研究所の大波純一先生による講義があり、研究データポリシーの役割や、大学の事例、データの管理システムなどについて大変興味深い講義を視聴させていただきました。

後半は国立情報学研究所の林和弘先生、文教大学の池内有為先生のもデレーターによる総合討論が行われ、第一部は「研究データポリシーをめぐる論点整理を中心に」、休憩を挟んで第二部は「研究データに関わる各ステークホルダーとの議論」というテーマに沿って討論が交わされました。

前述の先生方他、大学や研究所で研究データに関わる複数のパネリストにより活発な意見交換がされ、参加者からリアルタイムで届く質問にも、可能な限り回答いただきました。視聴しながら同じように疑問に思っていた内容が多く、パネリストの方々の回答は、大変参考になるものでした。

また、セミナーの中で特に印象に残ったのは、田野学長の「研究データを出したことが評価されないといけない」という言葉です。何のため研究データポリシーを策定するのか、という点からも、ポリシーをただ策定するのではなく、どんなふうに使っていくのか、なども考えていく必要があるのだと感じました。

なお、当日の資料および映像は下記Webページにて公開されています。ぜひ参考にしてください。

参考:SPARC Japanセミナー2021「研究データポリシーが目指すものとは」

<https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2021/20220222.html#speaker4>

(リポジトリ係長 藤田 祥子)

7. 論文発表・事例紹介等

当館職員の論文執筆や、学外の研究会における事例発表の活動記録です。

1. 執筆活動

石津朋之, 松野渉. 「LAが筑波大生の質問にオンラインで答えてみた」—大学院生チューターによる動画作成の取り組み—. 大学の図書館. 2021, vol.40, no.4, p.52 - 53

大久保明美. 筑波大学附属図書館における電子展示. 大学の図書館. 2021, vol.40, no.5, p.71 - 73

船山桂子. 第2回SPARC Japanセミナー2020<報告>. カレントアウェアネス-E. 2021, no.412, E2382

[カレントアウェアネス-E](https://current.ndl.go.jp/e2382)

<https://current.ndl.go.jp/e2382>

2. 事例紹介

開催日	氏 名	催し名 【テーマ・レジュメ・参考URL】
2021.6.5	宮原 俊之氏(帝京大学高等教育開発センター主任教授・教育方法研究支援室室長), 石津 朋之	第29回大図研オープンカレッジ(DOC) 【テーマ】効果的なガイダンス動画作成講座 うち事例紹介「筑波大学での大学院生チューターによる動画作成の取り組み」

8. 職員研修会

2021年度は、職員の資質向上と経験の共有を図るため計3回行いました。

日 時 ・ 場 所	講 師 ・ 発表者	参加人数
2021.5.31 新館2階会議室		5名
新任図書館職員研修会(1)	成澤めぐみ(情報企画課長)、山本淳一(アカデミックサポート課長)	
2021.6.10 新館2階会議室		3名
新任図書館職員研修会(2) 先輩に聞く筑波大学附属図書館のお仕事(座談会)	並木映李香、田村香代子、西彩花、清水彩代、石津朋之	
2021.9.10 集会室		12名
インターンシップ成果報告会	岡村祐月、永山賀子(情報学群 知識情報・図書館学類3年)	

6 トピックス

1. サービス・活動

日 付	内 容
2021.4.6	新型コロナウイルス感染拡大防止のためにしていた開館時間短縮の解除（大塚）
2021.4.27	新型コロナウイルス感染拡大防止のため開館時間短縮（大塚）
2021.5.6	貴重書展示室再開（中央）
2021.6.1	つくば市立中央図書館と相互貸借について申合せを締結
2021.6.7～10.6	電子ブック試し読みキャンペーン
2021.6.30	学外者の事前照会による来館利用開始
2021.8.14～8.15	基幹ネットワークのアップデートのため臨時休館（中央、医学）
2021.8.16～9.30	夏季休業期間中貸出終了時間の繰り下げ試行（体芸、図情）
2021.9.1	自宅への複写物郵送にクレジットカード払いが利用可能
2021.11.1	新型コロナウイルス感染拡大防止のためにしていた開館時間短縮の解除（大塚）
2021.11.12～12.10	購入雑誌見直しに関するアンケートを実施
2021.12.13～2022.2.4	展示設備調整のため貴重書展示室臨時閉室（中央）
2021.12.14	学外者貸出利用証を持つ卒業生・修了生・元教職員の利用再開
2022.1.6	大雪警報発令のため 18:00 に臨時閉館（大塚）
2022.1.15／1.16／2.25／2.26	大学入学者選抜のため臨時休館（中央、体芸、医学、図情）
2022.1.25	館内の 360°VR 画像公開（体芸、大塚）
2022.3.28	入館管理システムの入替工事のため臨時休館（図情）
2022.3.28～3.29	入館管理システムの入替工事のため臨時休館（体芸）

2. 展示

日 付	内 容	主 催
中央図書館 展示		
2021.4.1～4.30	震災から 10 年～食と酒東北祭り実行委員会 × Tsukuba for 3.11 コラボ企画～	食と酒東北祭り実行委員会 Tsukuba for 3.11
2021.4.5～4.28	筑波大学写真部新入生歓迎展示	筑波大学写真部
2021.4.5～5.5	図画団 新歓作品展	美術サークル図画団
2021.6.1～7.30	LA との冒険～ラーニング・アドベンチャー～	附属図書館ラーニング・アドバイザー
2021.6.18～7.2	写真部新人展	筑波大学写真部
2021.8.16～9.17	「namaste! の活動（インドと日本のハンセン病問題・ワークキャンプ）の写真を用いたハンセン病啓発」展示	インドワークキャンプ団体 namaste!
2021.10.4～10.29	新型コロナウイルスによる持続可能な環境と人々の生活への影響	Echo UT
2021.10.25～11.1	オープンアクセスおよびリポジトリに関するポスター展示（Open Access Week 2021）	附属図書館
2021.11.8～12.3	令和 3 年度附属図書館特別展 「時を数（よ）むー紀年・暦法・元号ー」	附属図書館
2021.12.13～12.24	セクシャルマイノリティ写真展 「OUT IN JAPAN @ 筑波大学」	ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
2022.2.1～3.25	附属学校ポスター展	附属学校教育局
2022.3.7～3.31	研究開発室成果報告会ポスター展示	附属図書館

体育・芸術図書館 展示

2021.4.5～5.5	図画団 新歓作品展	美術サークル図画団
2022.1.28～3.31	東京1964オリンピック・パラリンピック大会の舞台裏	オリンピック・パラリンピック総合推進室

図書館情報学図書館 展示

2022.3.29～	常設展「メディアの発展：古代から現代へ」	附属図書館（図情図書館）／共催： 図書館情報メディア系綿抜研究室
2022.3.29～	錦絵展示「昭和の縁起巻き物」	附属図書館（図情図書館）／共催： 図書館情報メディア系綿抜・時井研究室

3.オリエンテーション・講習会

内 容	実施回数	参加者数
新入生オリエンテーション(学群生)	2回	2,242名
新入大学院生オリエンテーション(院生)	2回	99名
留学生オリエンテーション	1回	40名
新任教員オリエンテーション	1回	- 名
論文の探し方講習会	20回	350名
自由テーマオリエンテーション	5回(2回)	119名(8名)
科目関連指導	19回(8回)	2,506名(343名)
(内訳) フレッシュマン・セミナー	12回(7回)	2,183名(340名)
知識情報特論III「文献の検索から入手まで」	2回	208名
カウンセリング科学学位プログラム向け講習会	1回	29名
経営学学位プログラム向け講習会	1回	35名
リハビリテーション科学学位プログラム向け講習会	2回	48名
授業「テキスト解釈」	1回(1回)	3名(3名)
その他	2回	44名

※新任教員オリエンテーションは資料アップロードをもって実施とし、参加者数は集計しない。
カッコ内は内数で、対面での実施回数・参加者数。それ以外の講習会・オリエンテーションは全てオンライン開催。

日 付	内 容	講 師	参加者数
LA(ラーニング・アドバイザー)セミナー			
2021.10.13	LA セミナー「ためになる卒論・修論エピソード」	大村浩之、笹川大河、廖曦彤、渡邊涼一 (附属図書館ラーニング・アドバイザー)	55 名
その他の研究・学習支援企画			
2022.1.21	令和3年度スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 「メディア虎の穴」 「学術情報の探し方」 (筑波大学附属駒場中・高等学校)	大和田康代 (学習支援担当)	123 名

4.研修・シンポジウム

日 付	内 容
2021.7.5～7.16	令和3年度大学図書館職員長期研修 (受講生 35 名)
2021.8.30～9.10	インターンシップ (筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類 2 名)

5.会議

日 付	内 容
2021.5.13/2022.2.2	つくば市域図書館連携協議会
2021.6.4/7.27/9.17/11.24/2022.2.22	附属図書館運営委員会
2021.6.14～6.21/9.6/2022.2.10	附属図書館収書専門委員会
2021.6.14/11.19/2022.2.10	次世代学習スペース整備検討タスクフォース
2021.6.18/2022.3.16	附属図書館研究開発室運営会議
2021.7.8～7.16/12.16	附属図書館ボランティア専門委員会

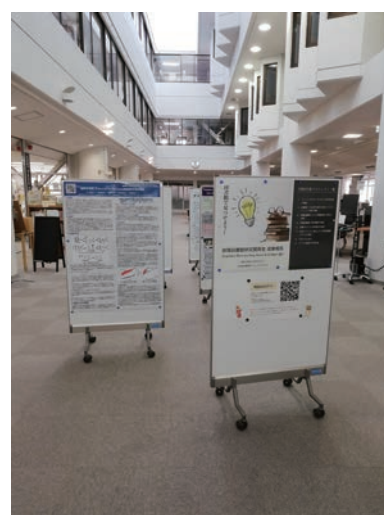
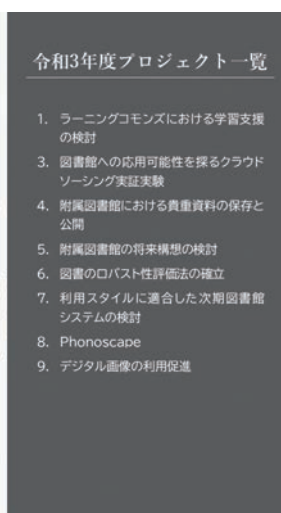
6 トピックス

6. 研究開発室

プロジェクト名	担当室員 / 協力者
ラーニングコモンズにおける学習支援活動の検討	逸村裕(図書館情報メディア系)、野村港二(生命環境系)、島田康行(人文社会系) / 三波千穂美(図書館情報メディア系)、五十嵐沙千子(人文社会系)、田川拓海(人文社会系)、学習支援推進WG(学術情報部)
図書館への応用可能性を探るクラウドソーシング実証実験	森嶋厚行(図書館情報メディア系)、宇陀則彦(図書館情報メディア系)、高久雅生(図書館情報メディア系) / 原田隆史(同志社大学)、福島幸宏(慶應義塾大学)、伊藤寛祥(図書館情報メディア系)、大沢直史(人間総合科学研究科)
附属図書館における貴重資料の保存と公開	山澤学(人文社会系)、谷口孝介(人文社会系)、松井敏也(芸術系) / 江藤光紀(人文社会系)、馬場美佳(人文社会系)、鈴木伸隆(人文社会系)、白戸健一郎(人文社会系) 特別展WG(学術情報部)
附属図書館の将来構想の検討	熊淵智行(学術情報部)、島田康行(人文社会系)、谷口孝介(人文社会系)、逸村裕(図書館情報メディア系)、宇陀則彦(図書館情報メディア系) / 筑波大学附属図書館将来構想検討タスクフォース、学習支援推進WG(学術情報部)
図書のロバスト性評価法の確立	江前敏晴(生命環境系)、逸村裕(図書館情報メディア系) / 望月有希子(生命環境系)
利用スタイルに適合した次期図書館システムの検討	高久雅生(図書館情報メディア系)、宇陀則彦(図書館情報メディア系)、熊淵智行(学術情報部) / 後宮優子、田村香代子、西彩花、真中孝行(学術情報部)、西田智志(知識情報・図書館学類)、鈴木伸崇(図書館情報メディア系)、春名航亨(知識情報・図書館学類)
Phonoscape : 学習による記録写真から情景を再現する立体音響像	善甫啓一(システム情報系)、逸村裕(図書館情報メディア系)
デジタル画像の利用促進	宇陀則彦(図書館情報メディア系)、和氣愛仁(人文社会系) / 堤智昭(人文社会系)、真中孝行、後宮優子、田村香代子、西彩花(学術情報部)



研究開発室成果報告会ポスター



研究開発室成果報告会展示風景

メディアにみる 附属図書館

双方向オンライン授業用ブースの設置

1.学内外のメディアに掲載された当館に関する記事

日付	掲載元	メディア	掲載内容
2021.4	TSUKU COMM	雑誌	2020年度筑波大学附属図書館企画展「もう一度見たい名品〜蔵出し一挙公開〜」電子展示を開催
2021.4.5	筑波大学新聞	新聞	福島沖地震 つくばで震度4 附属図書館で書籍落下被害
2021.4.14	読売新聞	新聞	高校と大学 学びつなぐ ※高大連携図書館サービスの紹介
2021.5.24	筑波大学新聞	新聞	中央図書館視聴ブース更新 利用者アンケート受け
2021.8.11	文教速報	雑誌	大学図書館職員長期研修を開催(筑波大)
2021.11.5	筑波大学新聞	新聞	特別展「時を数(よ)む 紀年・暦法・元号」
2021.12.13	筑波大学新聞	新聞	担当者に聞く 筑波大SNS運用の工夫と今後 附属図書館
2021.12.13	筑波大学新聞	新聞	元号の歴史や暦の変遷たどる 附属図書館特別展 資料40点を展示
2022.1.17	文教ニュース	雑誌	筑波大学附属図書館 特別展「時を数(よ)む 一紀年・暦法・元号」
2022.1.17	文教速報	雑誌	筑波大学附属図書館 特別展「時を数(よ)む 一紀年・暦法・元号」

2.筑波大学附属図書館の刊行物

附属図書館年報2020年度

筑波大学附属図書館研究開発室年次報告2020

令和3年度筑波大学附属図書館特別展 時を数(よ)む：紀年・暦法・元号(図録)

Prism (Practical Information for your Serendipity and Mind)

No.120 中央図書館学生サポートデスク ラーニング・アドバイザー2021

No.121 図書館ではじめてみよう!英語多読

No.122 LAとの大冒険〜ラーニング・アドベンチャー〜

No.123 電子ブック試し読みキャンペーン

No.124 2021年度LA企画オンラインセミナーダイジェスト

ためになる卒論・修論エピソード〜執筆作業から息抜きまで〜



3.筑波大学出版会の刊行物

発行日	タイトル	著者
2021.8.27	筑波大学アート・コレクション 石井コレクション 美をめぐる饗宴	五十殿利治 監修／寺門臨太郎 責任編集
2021.11.19	視覚障害者のためのスポーツ指導	宮本俊和・河合純一 編
2022.1.27	北米先住民族の宗教と神話の世界―歴史と文化交渉の観点から	木村武史 著

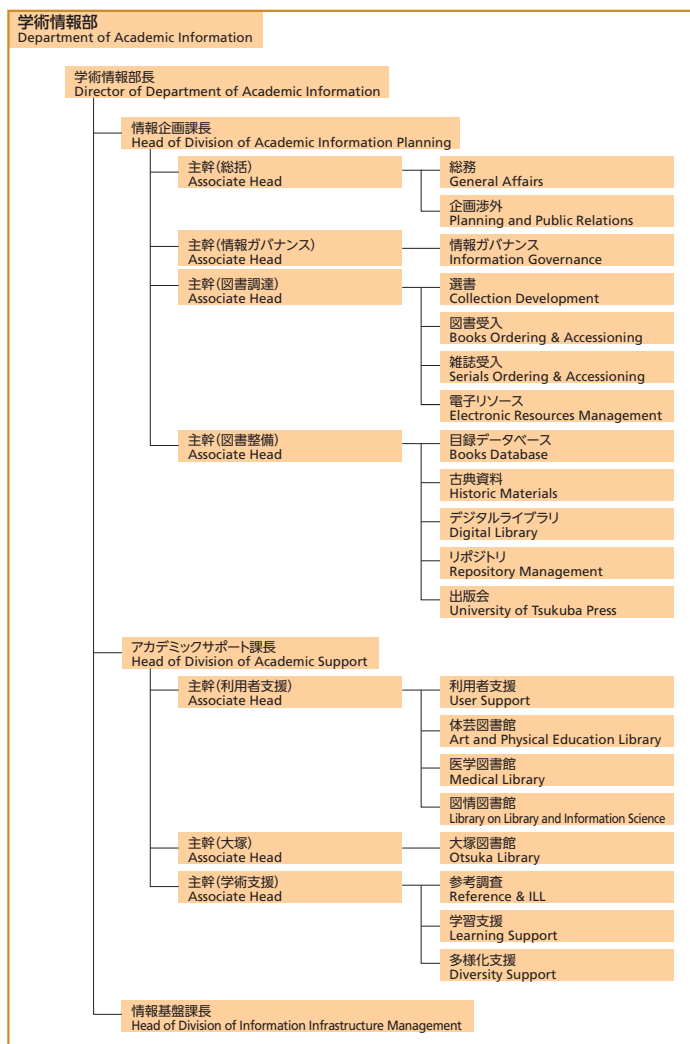
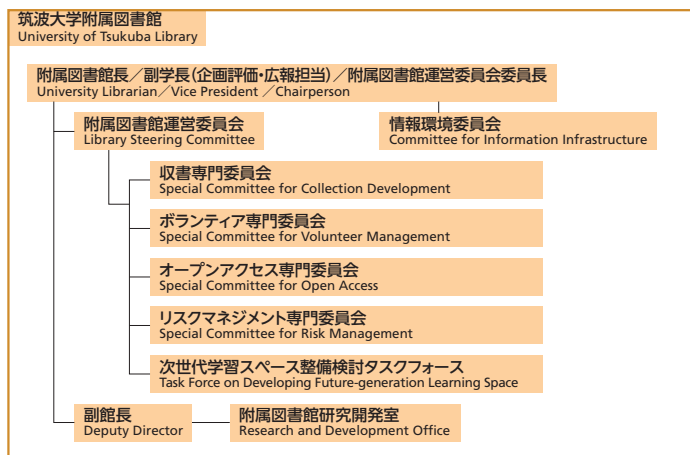
4.出版・放映・web上に掲載された所蔵・公開資料

日付	内容	資料種別	資料名	請求記号	資料ID	掲載書名等
2021/5/19	出版	和装古書	本草和名, 上巻	サ820-45	10076898714	国立科学博物館 特別展「植物 ―地球を支える仲間たち―」展示パネル・図録
2021/8/31	出版	和装古書	皇清職貢圖, 9巻, 巻3	ネ357-41	10076907296	企画展示「学びの歴史像〜わたりあう近代―」展示・図録(国立歴史民俗博物館)
2021/10/19	出版	貴重	鷲峰先生林学士文集; 鷲峰先生林学士詩集, [23]	ル295-13	10076710520	『親孝行の日本史』(中央公論新社、中公新書)
2021/10/27	動画作成・放映	和装古書	源氏香の圖	721.8-U96	10004014748	Music at Home 第7回文化の日「東西の声を聴く」(東京藝術大学アートリエゾンセンター)
2022/2/24	出版	和装古書	帝鑑圖説	ヨ600-56	10076881361、ほか3点	『中国文化の統一性と多様性』(汲古書院)
2022/3/31	影印	貴重	鯢絵 [16] (「鯢騒動」の図)	726.1-N47	10084019136	防災教育デジタル教材「3.11を忘れない」小学校版、中学校版 令和4年度(2022)

※全 43 件から抜粋したものです。

組織図・歴代図書館長

1. 組織図

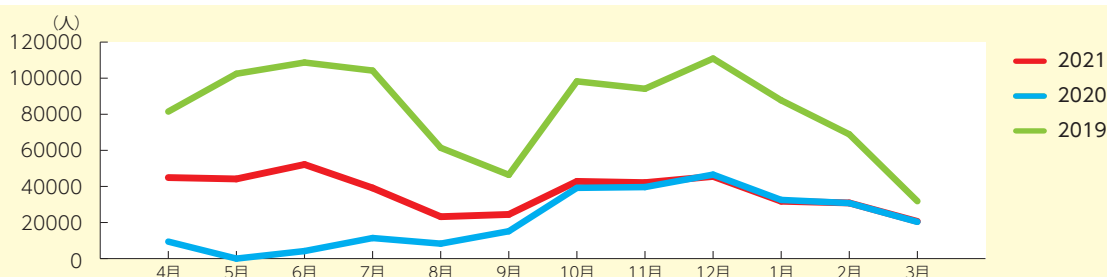


2. 歴代図書館長

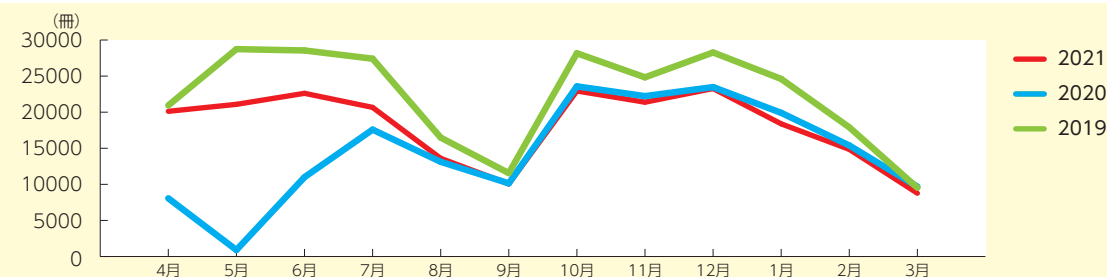
	氏名	期間	備考
高等師範学校・東京高等師範学校	三宅 米吉	明治32年6月30日 ~ 明治36年9月6日	図書係事務監督
	三宅 米吉	明治32年9月7日 ~ 明治44年4月29日	主幹
	松井 簡治	明治44年4月30日 ~ 昭和4年3月31日	主幹
東京文理科大学	松井 簡治	昭和4年4月1日 ~ 昭和7年3月31日	
	諸橋 轍次	昭和7年3月4日 ~ 昭和20年10月3日	
	能勢 朝次	昭和20年10月4日 ~ 昭和24年5月31日	
	能勢 朝次	昭和24年6月1日 ~ 昭和24年8月30日	
東京教育大学	下村寅太郎	昭和24年8月31日 ~ 昭和29年7月15日	
	中西 清	昭和29年7月16日 ~ 昭和31年3月31日	
	熊沢 龍	昭和31年4月1日 ~ 昭和33年3月31日	
	熊沢 龍	昭和33年4月1日 ~ 昭和35年4月30日	
	肥後 和男	昭和35年5月1日 ~ 昭和38年3月31日	
	山崎 定	昭和38年4月1日 ~ 昭和40年3月31日	
	平塚 直秀	昭和40年4月1日 ~ 昭和42年3月31日	
	酒井 忠夫	昭和42年4月1日 ~ 昭和44年3月31日	
	宮嶋 龍興	昭和44年4月1日 ~ 昭和44年4月27日	事務取扱
	酒井 忠夫	昭和44年4月28日 ~ 昭和46年4月27日	
筑波大学	橋本 重治	昭和46年4月28日 ~ 昭和47年3月31日	
	武藤 聡雄	昭和47年4月1日 ~ 昭和51年3月31日	
	西谷三四郎	昭和51年4月1日 ~ 昭和53年3月31日	
	三輪 知雄	昭和48年10月1日 ~ 昭和49年5月1日	事務取扱
	酒井 忠夫	昭和49年5月1日 ~ 昭和50年4月1日	
	大饗 茂	昭和50年4月2日 ~ 昭和52年4月1日	
	高橋 進	昭和52年4月2日 ~ 昭和54年4月1日	
	宮嶋 龍興	昭和54年4月2日 ~ 昭和54年6月9日	事務取扱
	岡本 敬二	昭和54年6月9日 ~ 昭和56年4月1日	
	高橋 進	昭和56年4月2日 ~ 昭和56年5月1日	事務取扱
筑波大学	郡司 利男	昭和56年5月1日 ~ 昭和60年3月31日	
	松浦 悦之	昭和60年4月1日 ~ 昭和60年4月3日	事務取扱
	升田 公三	昭和60年4月3日 ~ 昭和62年6月8日	
	柳沼 重剛	昭和62年6月9日 ~ 平成元年6月8日	
	小川 圭治	平成元年6月9日 ~ 平成3年3月31日	
	新井 敏弘	平成3年4月1日 ~ 平成5年3月31日	
	北原 保雄	平成5年4月1日 ~ 平成9年3月31日	2期
	斎藤 武生	平成9年4月1日 ~ 平成11年3月31日	
	板橋 秀一	平成11年4月1日 ~ 平成13年3月31日	
	山内 芳文	平成13年4月1日 ~ 平成15年3月31日	
	林 史典	平成15年4月1日 ~ 平成16年3月31日	
	植松 貞夫	平成16年4月1日 ~ 平成22年3月31日	3期
	波多野澄雄	平成22年4月1日 ~ 平成24年3月31日	
	中山 伸一	平成24年4月1日 ~ 平成28年3月31日	2期
	西川 博昭	平成28年4月1日 ~ 平成30年3月31日	
	阿部 豊	平成30年4月1日 ~ 令和3年3月31日	
	池田 潤	令和3年4月1日 ~	

1. 推移と分析

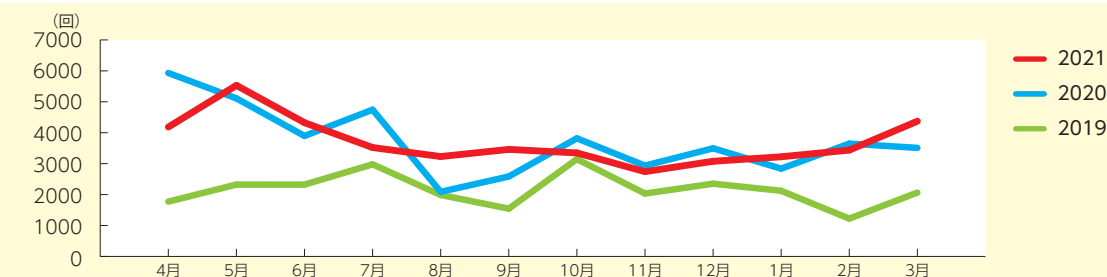
入館者数



貸出冊数



主要電子ブックアクセス数



※2021年6月～10月の電子ブック試読キャンペーン時の未購入コンテンツへのアクセス数を除く

2019年度から2021年度の入館者数・貸出冊数・電子ブックアクセス数を月ごとのグラフで表しました。まず、入館者数と貸出冊数を見ると、いずれもコロナ禍の影響により2020年度当初に激減しましたが、その後の推移には違いが生じています。2020年度、2021年度共に9月から1月にかけては、入館者数が2019年度の半数程度にとどまっているのに対して、貸出冊数は2019年度の数値に近づいていることから、図書の貸出を目的とする来館には大きな影響はなかったことが読み取れます。一方、2021年度も館内施設やスペースの利用制限が続いたため、グループ学習や全学計算機の利用を目的とする来館は少ない状態にとどまったと考えられ、結果として感染症流行前入館者数にまで回復するには至りませんでした。

2020年度はコロナ禍に伴う図書館の臨時休館に加え、感染症対策として不要な入構の制限やオンライン授業の推奨もあったことから入館者数が大きく減少する一方、リモートアクセスが可能な電子ブックの利用が大幅に増加しました。2020年6月に入館が再開された後も電子ブックアクセス数が2019年度の数値を下回ることなく、オンラインで利用可能な有用なコンテンツとなりつつあることがうかがえます。また、図書の貸出数と電子ブックのアクセス数を比較してみると、2019年度、2020年度ではどちらも夏休みである8月と9月は大きく減少し、10月と12月に増加していますが、2021年の8月と9月の電子ブックアクセス数は一定の利用数を保っています。これはコロナ禍で電子ブックの利用が広まったことや、同年6月から開始した試読キャンペーンにより電子ブックのプラットフォームへのアクセスが増え、購入済コンテンツの継続的な利用につながった結果と考えられます。

2021年度は前年度に続きコロナ禍の影響を大きく受けつつも、従来の図書館サービス再開と新たなサービスの提供開始に向けて様々な検討が行われた年でした。今後の図書館運用の変化と、それに伴う利用行動の変化、双方がもたらす様々な効果や影響について、引き続き注視して行く必要があります。

統計

2021(令和3)年度

2.利用統計

	中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合 計
年間開館日数 (日)	平日 237 土・日・祝日 110 合計 347	236 78 314	237 110 347	236 79 315	239 101 340	— — —
入館者数(人)	平日 200,958 (学外者 内数) 675 土・日・祝日 43,907 (学外者 内数) 240 合計 244,865 (学外者 内数) 915	48,470 35 6,522 5 54,992 40	88,803 53 17,738 31 106,541 84	17,591 87 3,001 12 20,592 99	8,537 349 6,224 357 14,761 706	364,359 1,199 77,392 645 441,751 1,844
平均入館者数(人)	平日 848 (学外者 内数) 3 土・日・祝日 399 (学外者 内数) 2	205 0 84 0	375 0 161 0	75 0 38 0	36 1 62 4	— — — —
1日当たり (学外者 内数)	706 3	175 0	307 0	65 0	43 2	— —
貸出冊数(冊)	学群生 69,475 院生 59,446 教員 22,743 学外者 632 その他 29 合計 152,325	15,640 10,406 4,153 22 1 30,222	8,594 3,427 4,852 23 0 16,896	7,161 4,241 4,443 106 0 15,951	390 8,723 2,894 107 0 12,114	101,260 86,243 39,085 890 30 227,508
貸出利用者数(人)	学群生 27,696 院生 20,411 教員 6,224 学外者 228 その他 7 合計 54,566	6,544 3,966 1,002 9 1 11,522	4,373 1,454 1,818 9 0 7,654	3,200 1,561 1,089 44 0 5,894	152 2,865 953 49 0 4,019	41,965 30,257 11,086 339 8 83,655
文献複写(コピー) (件)	学外依頼 3,531 学外提供 1,949 合計 5,480	585 227 812	1,396 283 1,679	224 87 311	790 142 932	6,526 2,688 9,214
相互貸借(図書) (件)	学外借受 1,161 学外貸出 2,174 合計 3,335	104 335 439	60 85 145	81 147 228	252 153 405	1,658 2,894 4,552
レファレンス件数(件)	学生 5,202 教職員 4,787 その他 667 合計 10,656	810 780 14 1,604	553 2,325 14 2,892	272 265 9 546	2,150 860 307 3,317	8,987 9,017 1,011 19,015
	資料に関するもの 7,582 利用案内・指導 3,060 事実に関するもの 14 合計 10,656	1,180 424 0 1,604	2,553 339 0 2,892	383 160 3 546	2,056 1,260 1 3,317	13,754 5,243 18 19,015

※新型コロナウイルス対策のため学外者の入館を停止していたが、2021/12/14に学外者貸出利用証を持つ卒業生・修了生・教職員の利用を再開した。

webコンテンツアクセス数

webサイトアクセス件数	件
学内	294,854
学外	981,611
合計	1,276,465

つばりポータルアクセス件数	件
メタデータアクセス数	2,298,343
本文ダウンロード数	2,581,325

主要な電子ジャーナルフルテキストアクセス件数	件
Cambridge Journals Online	12,135
JSTOR	55,909
Nature	201,427
Oxford Journals	60,782
ProQuest Central	27,480
Science	34,623
ScienceDirect	838,081
SpringerLink	197,581
Wiley Online Library	265,203

主要なデータベースアクセス件数(サーチ数)	件
Business Source Complete	3,545
InCites-Journal and Highly Cited Data	9,118
Lexis	4,027
Oxford English Dictionary	7,610
ProQuest Central	11,354
SciFinder [®]	76,183
Web of Science	167,368
医中誌Web	78,817

主要な電子ブックアクセス件数	件
Cambridge University Press	2,390
ProQuest Ebook Central	4,181
Maruzen eBook Library*	15,115
EBSCO eBooks	2,383
Springer eBooks	18,733
Wiley Online Library	1,648

*タイトルアクセス数(その他はフルテキストアクセス数)



皆さんのご利用をお待ちしています

3.基盤統計

施設環境

(2021年度末現在)

	中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合 計
建物面積(m ²)	19,330	3,518	2,793	2,848	1,552	30,041
座席数(席)	1,142	369	350	254	132	2,247
利用者用PC台数(台)	148	62	70	32	24	336

図 書

(冊)

		中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合 計
年度受入 冊数	(和洋区分) 和書	8,339	2,000	1,125	3,315	896	15,675
	洋書	2,100	212	41	194	110	2,657
	合計	10,439	2,212	1,166	3,509	1,006	18,332
	(受入区分) 購入	5,695	1,263	1,057	986	792	9,793
	寄贈	3,745	794	72	2,425	90	7,126
	製本	806	151	37	98	121	1,213
	その他	193	4	0	0	3	200
	合計	10,439	2,212	1,166	3,509	1,006	18,332
蔵書冊数	(和洋区分) 和書	1,139,517	203,578	96,471	189,257	56,577	1,685,400
	洋書	794,959	68,385	80,814	75,187	27,082	1,046,427
	合計	1,934,476	271,963	177,285	264,444	83,659	2,731,827

雑誌(冊子)

内 訳	年度受入タイトル数			所蔵 タイトル数
	購入	寄贈	計	
和雑誌	697	4,675	5,372	17,839
洋雑誌	302	468	770	12,990
合計	999	5,143	6,142	30,829

つくばリポジトリ 累積登録件数

(2021年度末現在)

内 訳	件 数
学術雑誌掲載論文	12,043
学位論文全文	5,884
学位論文内容・審査の要旨	11,129
修士論文	435
紀要論文	22,396
研究報告書	4,310
会議発表資料	462
講義資料	174
研究業績目録	23
貴重書コレクション	184
つくば3Eフォーラム	95
A-LIEP	65
その他(図書)	787
合計	57,987

電子ジャーナル契約タイトル数

(有料契約誌のみ)

内 訳	タイトル数
Cambridge Journals Online	404
JSTOR	963
Nature	29
Oxford Journals	247
ProQuest Central	25,500
Science	1
ScienceDirect	2,316
SpringerLink	1,574
Wiley Online Library	1,372
その他	4,927
合計	37,333

提供データベース・検索ツール

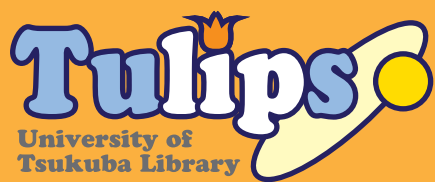
●主要契約データベース

データベース名
Business Source Complete
CINAHL
D1-Law.com
InCites-Journal and Highly Cited Data
Lexis
Oxford English Dictionary
ProQuest Central
PsycINFO
SciFinder [®]
Web of Science
Westlaw Japan
医中誌Web
聞蔵II ビジュアル
雑誌記事索引集成データベース
ジャパンナレッジLib
日経テレコン21
毎索
ヨミダス歴史館

電子ブック契約タイトル 累積数

(2021年度末現在)

内 訳	タイトル数	
	和	洋
Cambridge University Press	—	1,678
ProQuest Ebook Central	—	827
Maruzen eBook Library	2,862	519
EBSCO eBooks	492	1,073
Springer	—	29,546
Wiley Online Library	—	1,148
その他	146	3,703
合計	3,500	38,494



筑波大学附属図書館

〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1
 TEL 029-853-2347 FAX 029-853-6052
 voice@tulips.tsukuba.ac.jp
<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/>

21

令和4(2022)年6月30日発行
 デザイン印刷：マザータンク